

MASTER VIEW KVM SWITCH



ユーザーマニュアル

ACS-1208A

ACS-1216A

注意

この装置は FCC(米国連邦通信委員会)規則、パート 15 の副章 J に従い、デジタル装置クラス B の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、本装置が一般家庭内で取り付けられたときに、有害な電波干渉が発生するのを防ぐために設定されています。また、本装置は高周波エネルギーを使用し、発生させることがあります。この操作マニュアルに従わずに本装置を取り付け、使用した場合、電波通信に有害な障害を起こすことがあります。但し、定められた取り付け方法に従えば、必ず電波障害が起こらないと保証するものでもありません。本装置がラジオまたはテレビの電波受信に有害な障害となっているかどうかは、本装置の電源を入れたり、消したりして、確認してください。また、以下のひとつまたは複数の方法に従って、電波障害の状況を改善されることを推奨いたします。

- ◆ 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えてください。
- ◆ 本装置と受信機の距離を離してください。
- ◆ 受信機が接続されているコンセントと異なる電気回路に本装置のコンセントを差し込んでください。
- ◆ 販売店または、十分な経験を有するラジオ/テレビの技術者にお問い合わせください。



同梱品

基本パッケージ

以下のものが同梱されているか、ご確認ください。

- ◆ ACS-1208A または ACS-1216A KVM スイッチ ×1
- ◆ KVM ケーブル(2L-5202P) ×2
- ◆ 電源アダプタ ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ ユーザーマニュアル(本書) ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本装置と接続されたデバイスの破損を防ぐために、本ユーザーマニュアルをご使用前によくお読みになり、正しい手順に従ってインストールし、ご使用ください。

© Copyright 2003 ATEN® International Co., Ltd.
Manual Part No.PAPE-0211-1AT
Printed in Taiwan 06/2003

製品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

本マニュアルについて	6
マニュアル表記について	7
第 1 章 はじめに	8
製品概要	8
製品特長	10
必要ハードウェア環境	11
製品各部説明	13
ACS-1208A フロントパネル	13
ACS-1216A フロントパネル	14
ACS-1208A/ACS-1216A リアパネル	15
第 2 章 ハードウェアセットアップ	16
1 台でのセットアップ(1 段階接続)	16
デジチェーン接続によるセットアップ	17
ホットプラグ	19
ポート ID 番号	20
電源オフ、再起動	20
第 3 章 ホットキー操作	21
ホットキーによるポートアクセス	21
ホットキーモードの呼び出し	21
アクティブなポートの選択	22
オートスキャン	22
スキャンインターバルの設定	22
オートスキャン呼び出し	23
スキップモード	24
ホットキービープ音コントロール	25
ホットキー一覧表	26
第 4 章 OSD 操作	27
OSD 概要	27
OSD ナビゲーション	29
OSD メイン画面説明	29
OSD ファンクション	30
◆ F1 GOTO	30
◆ F2 LIST	31
◆ F3 SET	32
◆ F4 ADM	34
◆ F5 SKP	38

◆ F6 BRC	39
◆ F7 SCAN	40
◆ F8 LOUT	41
第 5 章 ファームウェアアップグレードユーティリティ	42
アップグレードの前に	43
アップグレード開始	44
アップグレード成功	47
アップグレード失敗	47
ファームウェアアップグレードリカバリー	48
付録	49
コンピュータ接続表	49
OSD デフォルト設定一覧	50
ログイン情報の消去	51
仕様	52
ラックマウント	53
トラブルシューティング	53
製品保証規定	54

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは ACS-1208A/ACS-1216A に関する情報や使用法について説明しており、取付け配置方法、操作方法の全てを提供しています。マニュアルの構成については下記をご参照ください。

- 第 1 章** はじめに: ACS-1208A/ACS-1216A 導入の目的・機能・利益の紹介、またフロント・リアパネルについて説明します。
- 第 2 章** ハードウェア セットアップ: ACS-1208A/ACS-1216A のセットアップ方法について説明します。単純な 1 段階接続からダイジーチェーンによる 32 台の接続まで説明します。
- 第 3 章** ホットキー操作: ACS-1208A/ACS-1216A のホットキー操作について説明します。
- 第 4 章** OSD 操作: ACS-1208A/ACS-1216A の OSD (オンスクリーンディスプレイ) 詳細および操作方法について説明します。
- 第 5 章** ファームウェアアップグレードユーティリティ: ACS-1208A/ACS-1216A 用ファームウェア最新版が公開されたときのアップグレード方法について説明します。
- 付録** マニュアル末尾には ACS-1208A/ACS-1216A についての技術情報およびその他の重要事項についてまとめてあります。

マニュアル表記について

- [] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。
- ▲ 重要な情報を示しています。

第 1 章 はじめに

製品概要

master view™ ACS-1208A/ACS-1216A KVM スイッチは 1 組のコンソール(キーボード、マウス、モニター)で複数のコンピュータへのアクセスを可能にするコントロールユニットです。KVM スイッチが開発される以前、複数台のコンピュータを 1 組のコンソールでコントロールするには、複雑でコストがかかるネットワークシステム導入しかありませんでした。master view™ ACS-1208A および ACS-1216A を導入すれば、低コストで、とても簡単に複数のコンピュータにアクセス・操作が可能になります。

1 台の master view™ ACS-1208A で 8 台まで、ACS-1216A は 16 台までのコンピュータをコントロールすることが可能です。31 台の master view™ ACS-1216A をデジチェーン接続することで、最大 512 台のコンピュータを 1 組のコンソールで操作可能になります。

ACS-1208A/ACS-1216A はデジチェーン接続の中での位置を自動検出するので、従来のようなディップスイッチの設定は必要ありません。ステーション位置はフロントパネルの LED で分かりやすく表示されます。

ACS-1208A/ACS-1216A は従来のモデルを改良し、優れたパフォーマンスと信頼性を持つ ATEN 独自開発の ASIC(特許出願中)を搭載しました。また通常の 25 ピンコネクタの代わりに高密度の 15 ピンを使用したことで、16 ポート KVM スイッチの機能を損なうことなく 19 インチラック 1U サイズを実現しています。

ACS-1208A/ACS-1216A 導入の設備投資は、ファームウェアアップグレードユーティリティによっても保証されています。弊社 web サイトで配布される最新のファームウェアパッケージをダウンロードして付属のユーティリティを使用することで、ACS-1208A/ACS-1216A のファームウェアを常に最新の状態に保つことができます。

セットアップも手早く簡単にできます。必要な作業はケーブルを該当ポートに差し込むだけです。ACS-1208A/ACS-1216A は直接キーボード入力ができるので特別なソフトウェアを必要とせず、複雑なインストール手順や互換性の問題に悩まされることもありません。接続されたどのコンピュータへも、キーボードのホットキー入力、または OSD(オンスクリーンディスプレイ)を使用して、簡単にアクセスすることができます。便利なオートスキャンシステムで、接続されている動作中のコンピュータの状態を一台ずつ監視、かつ自動的にスキャンすることができます。

master view™ ACS-1208A/ACS-1216A を導入するより、時間とコストを節約する方法は他にありません。ACS-1208A/ACS-1216A によって以下のことが可能になります。

- (1) 各コンピュータにそれぞれキーボード、マウス、モニタを購入する必要がなくなります。
- (2) それらの場所をとる余計な機械を設置するスペースを節約できます。
- (3) 標準的な KVM スイッチとキーボード、マウス、モニタを設置するスペースを節約できます。
- (4) 電力費を節約できます。
- (5) コンピュータからコンピュータへと絶えず動き回る手間が省けます。

製品特長

- ◆ 1 台のコンソールで 8 台 (ACS-1208A) / 16 台 (ACS-1216A) のコンピュータを操作可能
- ◆ デイジーチェーン接続対応 - 31 台のユニットをデイジーチェーンケーブルで接続して最大 512 台のコンピュータがコントロール可能 (ACS-1216A)
- ◆ ソフトウェア不要 - ホットキーまたは OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューを使用して、簡単にコンピュータの切替えが可能
- ◆ オートスキャン機能搭載
- ◆ ホットプラグ対応 - 電源を入れたままで、コンピュータの取り付け、取り外しが可能
- ◆ 優れたパフォーマンスと信頼性を持つ ATEN 独自開発の ASIC 搭載 (特許出願中)
- ◆ デイジーチェーン接続時にステーション位置を自動検出するのでディップスイッチによる設定は不要、フロントパネルの LED でステーション位置を分かりやすく表示
- ◆ デイジーチェーン接続のステーション構成を変更した際にポートネームを自動で再構成
- ◆ 2 レベルパスワードによるセキュリティ機能 - 権限を与えられたユーザーのみがコンピュータを閲覧・管理することができ、また最大 4 人までのユーザーおよび 1 人のアドミニストレーターがそれぞれのシステムプロフィールを設定可能
- ◆ 2 通りのログアウト方法 - 手動/タイムアウト
- ◆ PS/2 キーボード・マウス エミュレーション
- ◆ PS/2 マウス※、Microsoft Intellimouse Explorer、Logitech FirstMouse+ 対応
- ◆ VGA 解像度 - 最大 1,920 × 1,440
- ◆ 19 インチラック 1U サイズ
- ◆ ファームウェアアップグレード可能

※一般的なスクロールホイール付き 3 ボタンマウスに対応しています。ただし Logitech Mouse Ware の Change Device 機能は Windows NT では動作しません。

必要ハードウェア環境

コンソール

- ◆ 接続するコンピュータの解像度に適した VGA、SVGA またはマルチシンク対応モニター
- ◆ PS/2 キーボード
- ◆ PS/2 マウス

コンピュータ

以下の装置が各コンピュータにインストールされている必要があります。




- ◆ VGA、SVGA またはマルチシンクカード
- ◆ ミニ DIN 6 ピン (PS/2)のマウスポート
- ◆ 4 番ピンが DC+5V、3 番ピンがアースのミニ DIN 6 ピン(PS/2)キーボードポート、または 5 番ピンが DC+5V、4 番ピンがアースの DIN 5 ピン(AT タイプ)キーボードポート

注意:

- 1) ACS-1208A および ACS-1216A はシリアルマウスに対応しておりません。シリアル-PS/2 変換コネクタを使ってシリアルマウスを接続しても正しく動作しません。
- 2) AT スタイルキーボードソケットを使用しているコンピュータをお使いの方は、コンピュータのキーボードポートにケーブルを差し込むために、PS/2 から AT キーボードに変換するアダプタ(型番 2A-106 または、標準的なキーボードアダプタ)をお買い求めください。

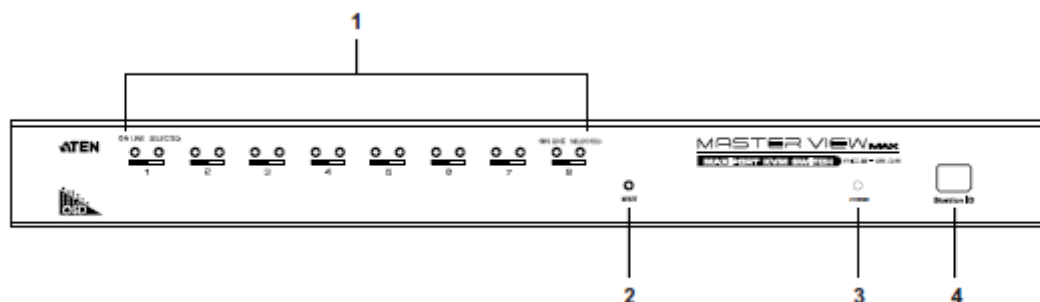
ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下の ACS-1208A/ACS-1216A 対応 CS ケーブルをご使用になることを推奨いたします。

製品画像	機能	型番と長さ
	デージーチェーンケーブル DB25 オス-DB25 メス	2L-1700 (0.6m) 2L-1701 (1.8m)
	PS/2 KVM ケーブル スイッチ側 SPHD-15 コンピュータ側 PS/2	2L-5201P (1.2m) 2L-5202P (1.8m) 2L-5203P (3m) 2L-5206P (6m)
	USB KVM ケーブル スイッチ側 SPHD-15 コンピュータ側 USB	2L-5202UP (1.8m) 2L-5203UP (3m) 2L-5206UP (6m)

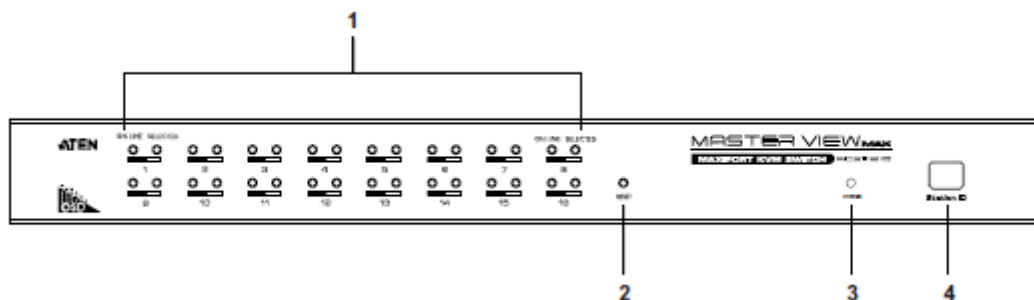
製品各部説明

ACS-1208A フロントパネル



1. ポート LED	ポート LED は対応するコンピュータポートの状態を示します。各ポートに 2 個の LED があり、左側がオンライン LED、右側が選択ポート LED です。 <ul style="list-style-type: none">◆ オンライン LED がオレンジに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータの電源がオンで稼動中であることを示します。◆ 選択ポート LED がグリーンに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータが KVM によって選択されていることを示します。通常の状況で使用されている場合で LED が点滅しているときは、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。◆ ACS-1208A は初回起動時に自己診断を行います。その間オンライン LED と選択ポート LED は交互に点滅します。
2. リセットスイッチ	ピンホール型のスイッチで、システムリセットに使用します。このスイッチを押すにはペーパークリップやペンの先端など、細いものを使用してください。
3. 電源 LED	電源 LED が点灯しているときは、ACS-1208A の電源がオンで操作可能であることを示します。
4. ステーション ID LED	ACS-1208A のステーション ID が表示されます。単体での使用による 1 段階接続、またはデジチェーン接続の 1 段階目のステーションは 01 と表示されます。デジチェーン接続の際、ACS-1208A は構成の中の位置を自動検出し、適切なステーション ID を表示します。

ACS-1216A フロントパネル



1. ポート LED

ポート LED は対応するコンピュータポートの状態を示します。各ポートに 2 個の LED があり、左側がオンライン LED、右側が選択ポート LED です。

- ◆ オンライン LED がオレンジに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータの電源がオンで稼動中であることを示します。
- ◆ 選択ポート LED がグリーンに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータが KVM によって選択されていることを示します。通常の状態で使用されている場合で LED が点滅しているときは、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。
- ◆ ACS-1216A は初回起動時に自己診断を行います。その間オンライン LED と選択ポート LED は交互に点滅します。

2. リセットスイッチ

ピンホール型のスイッチで、システムリセットに使用します。このスイッチを押すにはペーパークリップやペンの先端など、細いものを使用してください。

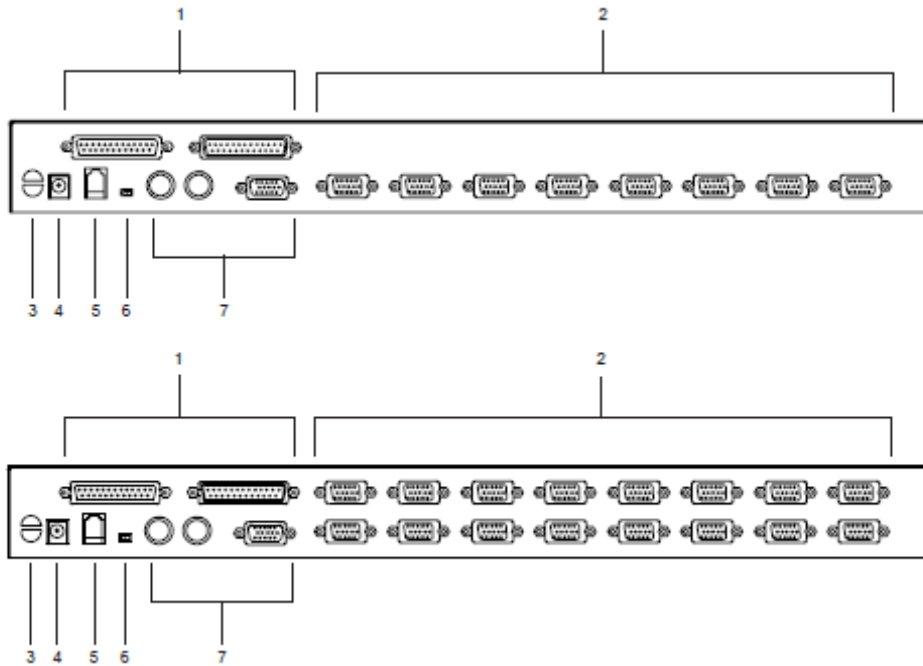
3. 電源 LED

電源 LED が点灯しているときは、ACS-1216A の電源がオンで操作可能であることを示します。

4. ステーション ID LED

ACS-1216A のステーション ID が表示されます。単体での使用による 1 段階接続、またはデジチェーン接続の 1 段階目のステーションは 01 と表示されます。デジチェーン接続の際、ACS-1216A は構成の中の位置を自動検出し、適切なステーション ID を表示します。

ACS-1208A/ACS-1216A リアパネル



1. デイジーチェーンポート	<p>デイジーチェーン接続するときは、専用ケーブル(P.12 参照)をこちらに接続してください。</p>
2. コンピュータポートセクション	<p>コンピュータとの接続に使用する KVM ケーブルはこちらに接続してください。</p> <p>注意：この 15 ピンコネクタは、このスイッチに対応するように特別にデザインされたものです(P.12 ケーブル参照)。 このポートに通常の HDB-15 コネクタを持つ VGA ケーブルを接続することはできません。</p>
3. ケーブルタイ スロット	<p>ケーブルタイを使用してケーブルを束ねて整理したい場合は、このスロットでユニット本体に固定することができます。</p>
4. 電源ジャック	<p>電源アダプタはこちらに接続してください。</p>
5. ファームウェアアップグレードポート	<p>管理者のコンピュータに保存した最新のファームウェアパッケージを転送するファームウェアアップグレードケーブルはこちらに接続してください。</p>
6. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	<p>通常の使用時とファームウェアアップグレード中はこのスイッチを NORMAL ポジションにしておいてください。詳細は P.42 をご参照ください。</p>
7. コンソールポートセクション	<p>単体での使用による 1 段階接続、またはデイジーチェーン接続の 1 段階目のステーションの場合は、キーボード、マウス、モニタの各ケーブルはこちらに接続してください。</p>

第2章 ハードウェア セットアップ

セットアップの前に

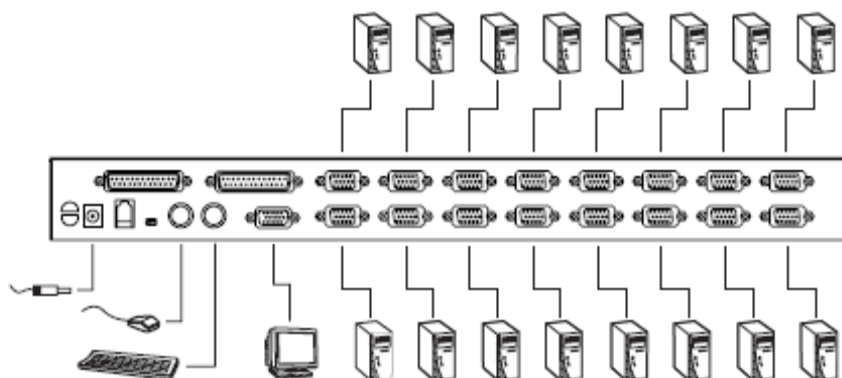


1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされていることを確認してください。

1 台でのセットアップ(1 段階接続)

1 台のみのセットアップでは、他の KVM スイッチを使用することはありません。次ページの図を参考にしながら下記の手順に従ってセットアップ作業を進めてください。

1. キーボード、マウス、モニタの各ケーブルをリアパネルのコンソールポートに接続してください。ポートは PC99 準拠のカラーリングが施されています。
2. 接続するコンピュータを、KVM ケーブル(P.12 参照)を使用して、任意の CPU ポートに接続してください。
注意:
このとき、デジチェーンポートは無視してください。デジチェーンポートは他の KVM ユニートを追加するときのみ使用します。デジチェーン接続については次章で説明しています。
3. 同梱の電源コードをスイッチの電源ソケットに接続してから、AC 電源コンセントに接続してください。
4. コンピュータの電源をオンにしてください。

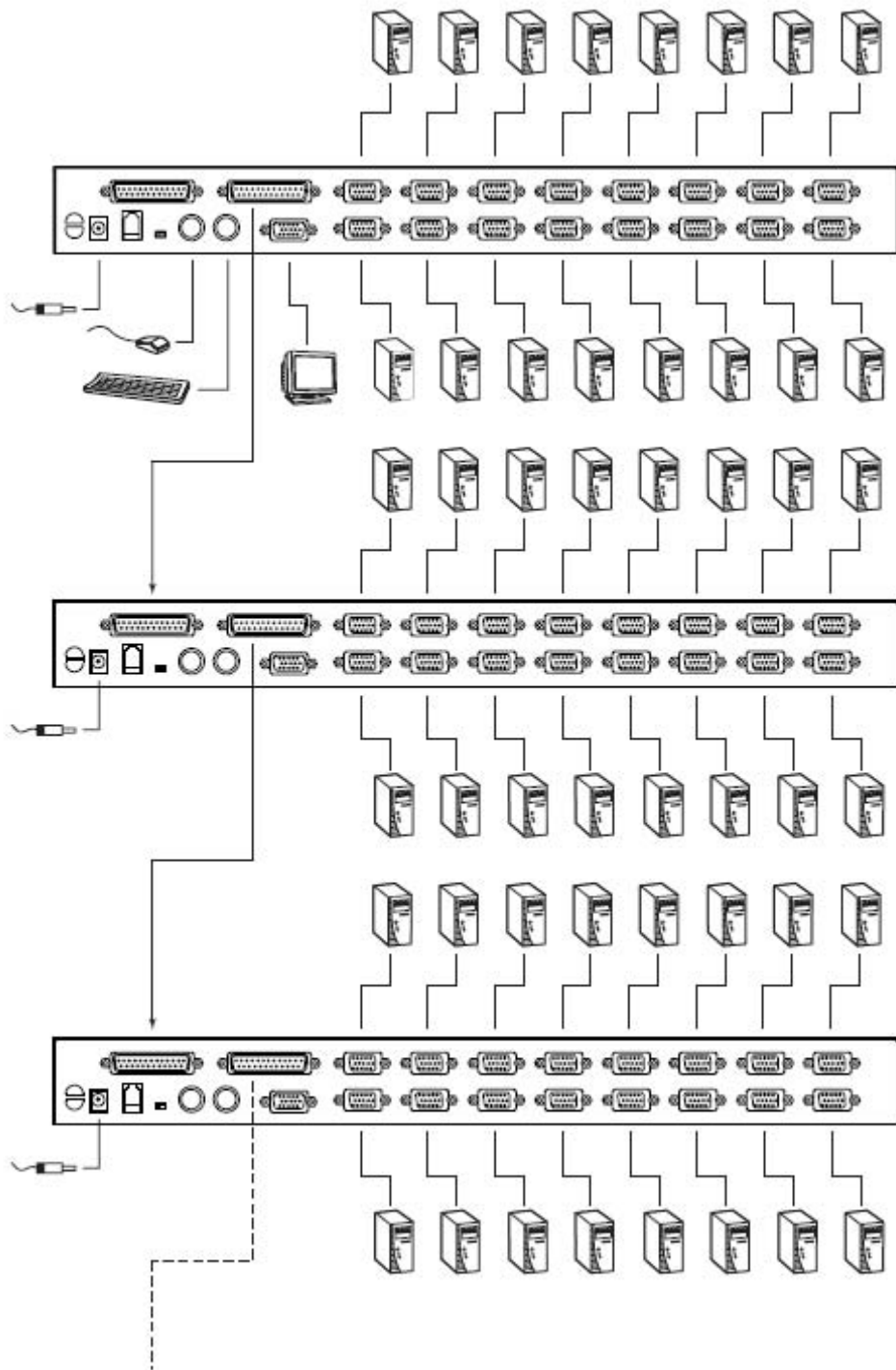


デジチェーン接続によるセットアップ

より多くのコンピュータをコントロールするために、ACS-1208A/ACS-1216A はデジチェーン接続に対応しています。最大 31 台までのユニットを追加してデジチェーン接続を行い、1 組のコンソールから 512 台までのコンピュータを切替えて操作可能です。マニュアル末尾にユニット導入数とコンピュータ接続可能数の一覧表を掲載していますのでご参照ください。

デジチェーン接続を行うには、以下の手順に従い作業を進めてください。

1. 接続する全てのデバイスの電源がオフになっていることを確認してください。
2. 同梱のデジチェーンケーブル(P.12 参照)を使用して、親機のチェーンアウトポートと子機のチェーンインポートを接続してください。
3. KVM ケーブル(P.12 参照)を使用して、ACS-1208/ACS-1216A のコンピュータポートと、接続するコンピュータのキーボード、マウス、モニタの各ポートを接続してください。
4. 2 と 3 の手順を繰り返して、デジチェーン接続する ACS-1208/ACS-1216A ユニットを追加してください。
5. 以下の手順に従って接続したデバイスの電源をオンにします。
 - a) 1 台目のステーションに電源アダプタを接続します。それからステーション ID が検出され、フロントパネルのステーション ID LED が表示されるまでお待ちください。(デジチェーン接続のステーション ID は 1 台目が **01**、2 台目が **02**、3 台目が **03**…となります)
 - b) 1 台目の起動後、2 台目のステーションに電源アダプタを接続し、同様にステーション ID LED が表示されるのを確認してください。3 台目以降も同じ手順を繰り返します。
 - c) すべてのステーションが起動したのを確認したら、コンピュータの電源をオンにしてください。



ホットプラグ

ACS-1208A/ACS-1216A はホットプラグに対応しているので、コンポーネントの追加や取り外しの際にシャットダウンをする必要はありません。ホットプラグ機能が適切に動作するように、ケーブルの接続作業は以下の手順に従ってください。

■ ステーション位置の変更

デジチェーン接続でのステーション位置の変更は、古い親機からデジチェーンケーブルを抜き、新しい親機に接続するだけです。ケーブル接続の変更後、OSD メニューでステーション位置変更を反映させるために、ステーション ID のリセットを行う必要があります。詳細については P.37 の **RESET STATION IDS** をご参照ください。

■ CPU ポートのホットプラグ

CPU ポートに接続したコンピュータの位置変更を行った場合は、手動で OSD メニューのポート情報を変更する必要があります。詳細については OSD ファンクション **F3 SET** 下部メニューの **SCAN/SKIP MODE** (P.33) および **F4 ADM** 下部メニューの関係する項目をご参照ください。

注意: 接続するコンピュータのプラットフォームがホットプラグに対応していない場合、CPU ポートのホットプラグ機能は適切に動作しません。

■ コンソールポートのホットプラグ

キーボード、マウス、モニタポートはすべてホットプラグに対応しています。ただし、マウスについてのみ、以下の点に注意してください。

- a) 同じ機種のマウスについては、自由にホットプラグを行うことができます。
- b) 異なる機種のマウスを接続する場合は、構成のすべてのステーションおよび接続されているコンピュータを再起動する必要があります。P.20 の電源オフおよび再起動の項目をご参照ください。

注意: 万が一ホットプラグ後にキーボード・マウスが反応しなくなった場合、リセットボタン (P.13、14 参照) を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

ポート ID 番号

ユニットのコンピュータポートにはそれぞれ個別のポート ID が割り当てられています。このポート ID はステーション番号とポート番号の 2 つの番号で構成されています。

- ◆ ステーション番号ーデジチェーン接続内でのステーション位置を示す 2 桁の数字。
- ◆ ポート番号ーコンピュータが接続されているステーションのポートを示す 2 桁の数字。
- ◆ ステーション番号ーポート番号の順で表示されています。
- ◆ 1～9 までのステーションおよびポート番号は、十の位に 0 がつきます。従って、01～09 と表示されます。例えばステーション 12 のポート 6 に接続されたコンピュータは、ポート ID 12-06 となります。

電源オフ、再起動

接続した ACS-1208A/ACS-1216A ユニットのうちの一つの電源を切り、再起動する必要がある場合は、まず ACS-1208A/ACS-1216A リアパネルの電源アダプタを抜いてください。その後以下の手順に従ってください。

1. 電源を切るユニットに接続している全てのコンピュータをシャットダウンしてください。
注意: キーボード起動機能がついているコンピュータが接続されている場合は、そのコンピュータの電源アダプタも抜かなければいけません。そうしないと電源が供給されている状態のままになっています。
2. 10 秒待った後、ステーションに電源アダプタを接続しなおしてください。
3. ステーションが起動した後、コンピュータの電源を入れてください。
注意: もし 2 台以上のステーションをシャットダウンした場合は、まず最上部のステーションの電源をオンにし、その後順に上部から下部へと電源をオンにしてください。

第3章

ホットキー操作

ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによって、キーボードから直接特定のコンピュータに KVM コントロールを切替えることができます。ACS-1208A/ACS-1216A は、以下のようなホットキーポートアクセス機能を備えています。

- ◆ アクティブなポートの選択
- ◆ オートスキャン
- ◆ 前後のポートへの切り替え

ホットキーモードの呼び出し

ホットキーによる全ての操作は、まず HKM (ホットキーモード) を呼び出してから行います。ホットキーモードの呼び出しは、次の手順で行います。

- 1) [Num Lock] キーを押したまま
- 2) [*] アスタリスクキーまたは [-] マイナスキーを押し、すぐに離します。
- 3) [Num Lock] キーを離します。

[Num Lock] + [*]

or

[Num Lock] + [-]

注意: アスタリスク、マイナスキーは押下してからすぐに (0.5 秒ほど) 離すようにしてください。そうしないと入力が無効になります。

ホットキーモードが有効になったら:

- ◆ Caps Lock と Scroll Lock の LED が交互に点滅し、HKM が有効になったことを示します。
- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。青い背景に黄色の文字で、入力したホットキーコマンドが表示されます。
- ◆ 通常のキーボード・マウス入力は無効になり、ホットキー入力およびマウスのクリックのみが有効になります。
- ◆ ホットキーモードではテンキー使用に制限があります。[-] マイナスキーは使用できますが、数字の入力は無効となり、対応する矢印キーとして動作してしまいます。数字の入力はキーボード上部のキーを使用してください。
- ◆ [Esc] を押すと HKM を終了します。

アクティブなポートの選択

それぞれの CPU ポートは、ポート ID を割り当てられています(ポート ID 番号、P.20 参照)。ホットキーを用いて、このポート ID を指定することにより CPU ポートに接続されたコンピュータに直接アクセスすることが可能になります。以下の手順に従って入力して下さい:

1. HKM を有効にしてください(前ページ参照)
2. 切替えるコンピュータのポート ID 番号を入力

ポート ID 番号はディスプレイ上にコマンドラインにて表示されます。もし間違った番号を入力した場合は[Backspace]キーにて修正してください。

3. [Enter]キーを押してください。

KVM は指定されたポート ID に接続されたコンピュータに切替り、ホットキーモードは自動的に解除されます。

オートスキャン

オートスキャンモード時は、現在のオペレータがアクセス可能なすべての CPU ポートに対し、一定の間隔(Scan/Skip Mode:P.24 参照)で切替えながらモニタ表示をします。この機能は複数のコンピュータの動作を自動的に監視するのに便利です。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートを表示するインターバル時間の設定は、OSD の F3 SET 機能(P.32 参照)で行いますが、以下のホットキー操作によっても設定変更が可能です。

1. HKM を有効にしてください(P.21 参照)
2. [T] , [n]とキー入力してください。
[T]は[T]キー、[n]は任意の数字です。1~255 秒の間で設定してください。
[T]のキーと入力した数字はコマンドライン上に表示されます。もし間違った場合は [Backspace]キーで修正してください。
3. [Enter]キーを押してください

[Enter]キーを押した後は、自動的に HKM は解除され、指定のとおりオートスキャンモードを実行する設定になっています。

オートスキャン呼び出し

オートスキャン開始のホットキーは以下の通りです：

1. HKM を有効にしてください(P.21 参照)
2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押した後、自動的に HKM は解除され、オートスキャンモードになります。

- ◆ オートスキャンモードで動作中、特定のポートで[P]キーを押す、もしくは、マウスの左クリックを行うと一時停止状態になります。この状態の時は、コマンドライン表示により、*Scan: Paused*と表示されます。

オートスキャン状態をストップするには 2 つの方法があり、一つがこの一時停止機能です。一時停止機能はオートスキャンモードを完全に終了させるよりも便利です。オートスキャンを終了してしまうと、次に再開したときは構成の最初のコンピュータからスキャンを行うこととなりますが、一時停止からのスキャン再開は、停止していたポートの次のポートからスキャンされます。

一時停止からの再開は、任意のキーを入力する、もしくはマウスを左クリックしてください。

- ◆ オートスキャンモード時は、通常のキーボード入力とマウス機能は無効になります。オートスキャン中に実行可能なキー入力とマウスクリックのみ可能となります。通常のキー入力を行う場合は、オートスキャンモードを終了してください。

3. オートスキャンモードを完全に終了する場合は、[Esc]または[スペースキー]を押します。この操作によって、いつでもオートスキャンモードを終了させることができます。

スキップモード

この機能では、コンピュータからコンピュータへの切替えを手動で行います。一定間隔で自動的に切替わるオートスキャンモードとは違って、スキップモードでは特定のポートを表示させておく時間を自由に決めることができます。以下のホットキーによって、スキップモードを実行することができます：

1. HKM を有効にしてください(P.21 参照)

2. [矢印]キーを入力してください

- ◆ キーボードの[矢印]キーを使います。矢印キーを押した後は、自動的に HKM は解除されます。以下のホットキーの組み合わせを入力してください：

[←]を押すと、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。

[→]を押すと、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。

[↑]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在 1 台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

[↓]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1 台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

- ◆ 一旦スキップモードを実行すると、矢印キーを押す度に、スキップ操作を実行できます。毎回ホットキーモード呼び出しの操作をする必要はありません。

- ◆ スキップモードを実行している間、通常のキーボードとマウス機能は、サスペンドされます。スキップモード中に有効なキー入力のみ可能となります。通常のキー操作をする必要がある場合は、スキップモードを終了してください。

3. スキップモードを終了するには、[Esc]または[スペースキー]を押してください。

ホットキービーブ音コントロール

ビーブ音のオン/オフは OSD ファンクションで設定しますが(P.35 参照)、ホットキーでも設定可能です。ホットキー組み合わせは以下のようになっています。

1. HKM を有効にしてください(P.21 参照)。
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビーブ音オン/オフが切り替わります。設定確認のために、コマンドラインで Beeper On/Beeper Off の文字が 1 秒間表示されます。また操作後に HKM は自動的に解除されます。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [*]	[ポート ID] [Enter]	入力したポート ID のポートに接続されたコンピュータにアクセスします。
	[T] [n] [Enter]	オートスキャンのインターバルを設定します。[n]は秒数を示し、1～255 秒の間で設定します。
	[A]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモード時は、[P]または左クリックで一時停止になります。 オートスキャンが一時停止状態で、任意のキーを押す、または左クリックすることによって、オートスキャンを再開します。
	[←]	スキップモード時に、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[→]	スキップモード時に、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[↑]	スキップモード時に、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在 1 台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	[↓]	スキップモード時に、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1 台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	[B]	ビープ音のオン/オフを交互に切替えます。

第4章 OSD 操作

OSD 概要

OSD (オンスクリーンディスプレイ) はメニュー形式で表示され、KVM スイッチに接続されているコンピュータの操作・切替えを行う機能です。すべての操作は OSD メイン画面から始めます。

OSD メイン画面を表示するには [Scroll Lock] キーを 2 度押します。

注意:

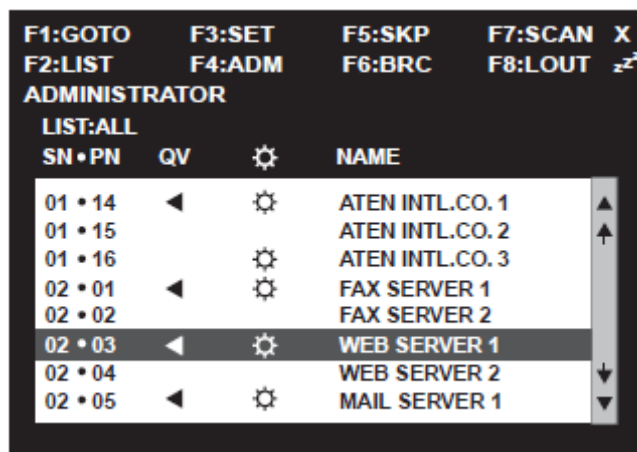
OSD を表示するホットキーは、[Scroll Lock] キー 2 度押しから [Ctrl] キー 2 度押しに変更することもできます (P.32 参照)。この場合の [Ctrl] キーはキーボードの同じサイドのものを使ってください。

OSD は 2 レベル (アドミニストレーター/ユーザー) のパスワード保護がされています。OSD メイン画面が表示される前に、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。管理者によってパスワードが設定されている場合は、OSD メイン画面にアクセスするには有効なユーザー名とパスワードを入力しないといけません。

OSD の初回起動時、パスワードはまだ設定されていません。ログインするには入力画面で [Enter] キーを 2 度押ししてください。OSD メイン画面はアドミニストレーターモードで表示されます。このモードではユーザーはアドミニストレーター権限を持ち、パスワードの設定も含めすべての機能を使用することができます。




OSD が起動すると、このような画面が表示されます。




注意：

- 1) この画面はアドミニストレーターモードのもので、ユーザーモードではアドミニストレーターのみが使用できる F4、F6 ファンクションは表示されません。
- 2) OSD は常にリスト表示され、選択時に使用するハイライトバーは前回 OSD 終了時の位置を復元して表示されます。
- 3) ユーザーモードでは、管理者によってそのユーザーにアクセス権限が与えられているポートのみが表示されます。

OSD ナビゲーション

- ◆ メニューを閉じて OSD を終了するには、OSD メイン画面右上にある × マークをクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトするには OSD メイン画面上部の[F8]または  マークをクリックするか、[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示の上下の行に移動したい場合は、三角マーク(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下の矢印キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示の画面を上下に切り替えたい場合は、矢印マーク(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up] [Page Down]キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ KVM 操作するポートを切替える場合は、リスト画面でクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。
- ◆ 何らかのアクションを実行したあとは、自動的に一段上のメニューに戻ります。

OSD メイン画面説明

見出し	説 明
PN	この項目はポート ID 番号(ポート ID 番号の詳細は、P.20 を参照)です。すべてのコンピュータポートに番号があります。簡単な切替え方法としてハイライトバーを移動し[Enter]を押すこともできます。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.36 を参照)すると、QV の項目には矢印が表示されます。
	電源がオンになっていて、かつオンラインになっているコンピュータはこの太陽マークが表示されます。
Name	ポートに対して名前を登録(ポート名前編集の詳細は、P.35 を参照)した場合、この項目にポート名前が表示されます。

OSD ファンクション

OSD ファンクションでは、OSD 操作に関する以下のような設定を行います。

- ・任意のポートへのクイックアクセス
- ・特定のポートのオートスキャン
- ・ポートへのアクセス権限の設定
- ・クイックビューポートの設定
- ・ポート名称の編集
- ・ユーザー管理
- ・システム管理
- ・OSD 設定

OSD ファンクションにアクセスするには：

1. メイン画面上部にあるファンクションキーをクリック、またはお使いのキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューの選択は、サブメニュー名をダブルクリックするか、リスト表示でハイライトバーを移動させ、「Enter」キーを押してください。
3. [Esc]キーを押すと一段上のメニューに戻ります。

◆ F1 GOTO

F1 GOTO 機能により、直接ポート名称、もしくはポート ID を入力することで、ポート切替えが可能です。

- ◆ 切替えにポート名称を使用する場合は、まず[1]キーを押し、ポート名称を入力後[Enter]を押してください。
- ◆ 切替えにポート ID 番号を使用する場合は、まず[2]キーを押し、ポート ID 番号を入力後[Enter]を押してください。

注意：ポート名称、もしくはポート ID の頭文字を入力すると、条件に当てはまるポートがリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は P.36 参照)。ポート名称とポート ID のリスト表示は設定に依存します(詳細は F2 LIST 参照)。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

◆ F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりすることができます。OSD ファンクションの多くは、メイン画面のリストに表示されている中から、選択されたコンピュータだけを操作します。下記の表は、サブメニュー画面の選択肢とその意味です。

設 定	機 能
ALL	コンピュータが接続されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW *	クイックビューポート(P.36 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	電源が入っているコンピュータに接続されているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.36 参照)として選択され、かつ電源がオンのコンピュータが接続されたポートをリストアップします。

* アドミニストレーターのみがクイックビューポートの設定を行うことができます(詳細は、P.36を参照)。

ポートを選択するには、リストでハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。切替わるとアイコンが現われ、現在選択したポート ID を表示します。

◆ F3 SET

F3 SET では各ユーザーの使用環境の設定をします。それぞれのプロファイルは OSD 内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更をするには、F3 SET の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。

次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下記のリストをご参照ください：

設 定	機 能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] 2 度押しまたは [Ctrl] 2 度押し [Ctrl]キーの組み合わせは、コンピュータで使用中のプログラムに対して不都合がある可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キーの組み合わせになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面のどこにポート ID ディスプレイを表示するかを決めます。デフォルトでは画面の左上ですが、画面の任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、モニタ画面にポート ID を表示する時間を決定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。0 秒で設定するとこの機能を使用不可にします。

(この表は次ページに続く)

(F3 SET の続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート ネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトではポート番号 とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (P.40 の F7 SCAN をご参照ください) で選択されたポート それぞれを循環して表示する際のインターバル時間を設定します。1~255 秒 までの秒数を入力し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間 です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード (P.38 をご参照ください) とオートスキャンモード (P.40 をご参照 ください) を実行する際、どのコンピュータにアクセスするかを設定します。選択 方法は以下の 4 つです。 ALL — ユーザーがアクセス可能な全てのポート (P.36 参照) POWERED ON — アクセス可能で、かつ電源がオンのポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能で、かつクイックビューポート (P.36 参照) とし て設定されたポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能で、クイックビューポートと して設定され、かつ電源がオンのポートのみ デフォルトは、ALL になっています。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブラン クになります。1~30 分までの時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分 で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分 (不可) となっ ています。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、 ホットキーコマンドの機能を使用可能/不可を切替えます。デフォルトでは ON 使用可能になっています。

◆ F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で F4 ADM をダブルクリックするか、または上下の矢印キーを使ってハイライトバーを移動させ、[Enter]を押します。

設定したい項目を選択すると、その下のサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで移動させたあと、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下記の表の通りです。

設 定	機 能
SET USERNAME AND PASSWORD	<p>この機能でユーザー名とパスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1人およびユーザー4人のパスワードが設定できます。2. ユーザーフィールド、またはアドミニストレーターフィールドのうち、1つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは英数字(A~Z, 0~9)のうち、最大12文字までの組み合わせが可能です。3. 各人のユーザー名とパスワードを入力したあと、[Enter]を押します。4. 以前のユーザー名またはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字をバックスペースキーを用いて消してください。 注意: ユーザー名とパスワード情報をすべて消去して工場出荷時の状態に戻すには、P.51のログイン情報の消去をご参照ください。
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定した時間、コンソールからの入力が無い場合、オペレータは自動的にログアウトされ、コンソールを再び使用する前にもう一度ログインが必要となります。</p> <p>この機能はあるオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの設定は、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0分で設定すると、この機能を使用不可にします。デフォルトは0分(不可)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
EDIT PORT NAMES	<p>どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。</p> <p>ポートネームを編集するには、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 編集したいポートをクリックするか、そこにナビゲーションキーを使ってハイライトバーをそこに移動させます。そして、[Enter]を押します。2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正、または、削除してください。最大文字数は 12 文字で、以下の文字が使用できます。<ul style="list-style-type: none">◆ アルファベット全て: a~z ; A~Z◆ 数字全て: 1~9◆ 記号: + - / : . およびスペース大小文字は関係ありません。OSD ではすべて大文字で表示されます。3. ポートネームの編集が終了したときは、[Enter]を押して、その変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻します。ただし、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定だけは、保持されます。</p>
CLEAR THE NAME LIST	<p>この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますのでご注意ください。異なる点は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定をも削除します。</p>
ACTIVATE BEEPER	<p>ビープ音の設定を行います。Y(ビープ音有)を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.40 参照)が有効になっている時、または、OSD メニューで無効な入力がされた時は常にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y(有)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
SET QUICK VIEW PORT	<p>どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。 注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、クイックビューポートにしたいものをダブルクリックするか、上下の矢印[↑][↓]キーを使用してハイライトバーを移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、矢印は表示されません。 ◆ F2 LIST (P.31 参照)にクイックビューオプションの一つが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ もし、オートスキャン機能 (P.40 をご参照ください)にクイックビューのオプションのうち 1 つが選択された場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET ACCESSIBLE PORT	<p>この機能でアドミニストレーターはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、そのあと[スペースキー]を押して、F(フルアクセス) / V(見るのみ) / ブランクという選択肢の間を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの動作を繰り返し、それから[Esc]を押します。デフォルトは、全てのポートの全てのユーザーに対し、F(フルアクセス)となっています。</p> <p>注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストには表示されません。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
RESET STATION IDS	<p>デジチェーン内のステーション構成を変更した場合、OSD は変更後の状態を即座に反映させることができません。この機能を実行して OSD で構成の再検出を行い、新しい物理的構成をリスト表示させる必要があります。</p> <p>注意: この機能でアップデートされるのはステーション番号のみです。ポートネーム、アドミニストレーター権限による設定 (アクセス可能ポートの設定、クイックビューポートの設定等) を除いて、ステーション構成の変更によって影響を受けるすべての設定は手動で設定しなおさなくてはなりません。</p>
FIRMWARE UPGRADE	<p>ACS-1208A/ACS-1216A のファームウェアをアップグレードする場合 (P.42 参照) は、最初にこの機能でファームウェアアップグレードモードにしなくてはなりません。</p> <p>このメニューを起動すると、現在のファームウェアバージョンが表示されます。[Y]を押すとファームウェアアップグレードモードになり、[N]を押すとこのメニューを終了します。</p>

◆ F5 SKP

F5 SKP をクリックするか、または[F5]を押して、スキップ(SKIP)モードを呼び出します。この機能により、現在表示しているコンピュータの前後の有効なポートに簡単にスキップすることができます。

◆ スキップモードによる切替えが利用できるコンピュータは、F3 SET の SCAN/SKIP MODE (P.33 参照)で選択します。

◆ スキップモードの操作は以下の通りです。

[←]を押すと、リスト表示中の一つ前のコンピュータに切り替わります。

[→]を押すと、リスト表示中の一つ後ろのコンピュータに切り替わります。

[↑]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切り替わります。

[↓]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切り替わります。

注意: スキップ機能で切替えるときは、SCAN/SKIP モードで選択されているポートに移動します。

◆ もし、ポートがスキャン/スキップモードとして選択されていたならば、ポート ID ディスプレイの前に左/右向き三角形が表示されます。(フォーカスがそのポートに切り替わるとき)

◆ スキップモードが有効になっている時には、コンソールは機能しません。コンソールを使用するには、スキップモードを解除してください。

◆ スキップモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

◆ F6 BRC

F6 BRC ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。**F6 BRC** をクリックするか、**[F6]**を押して、BRC ブロードキャストモードを呼び出してください。この機能を有効にすると、コンソールから送られたコマンドは接続中の利用できるコンピュータ全てに実行されます。この機能は、広くシステムをシャットダウンさせたり、アップグレードさせるソフトウェアをインストールしたりするなど、複数のコンピュータを操作する必要がある時に、非常に便利です。

BRC 機能は、**F2 LIST** (P.31 参照)と併せて使用します。LIST 機能は OSD メイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりするのに使用されます。OSD メイン画面に現在表示されたポートに対して、コマンドを同時に実行します。

- ◆ BRC モードが有効な時は、現在 KVM 操作をしているポートのポート ID ディスプレイの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な間は、マウスが機能しません。マウスを使用するときは、BRC モードを解除してください。
- ◆ BRC モードを解除するには、ホットキーで OSD を呼び出し、それから **F6 BRC** をクリックするか、**[F6]**を押してください。

◆ F7 SCAN

F7 SCAN をクリックするか、[F7]を押すと、オートスキャンモードが呼び出せます。この機能は一定間隔にて設定されたコンピュータを自動的に切替えて表示することができます。これにより、手動で切替える手間をかけずに複数のコンピュータの動作を監視できます。

- ◆ F3 SET で設定された **SCAN/SKIP MODE**(P.33 参照)を使用して、オートスキャンするコンピュータを選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間は、**F3 SET** 機能の **SCAN DURATION**(P.33 参照)で設定できます。
- ◆ 各コンピュータにオートスキャンモードでアクセスされている場合、ポート ID ディスプレイの前に **S** の文字が表示されます。
- ◆ オートスキャンモード中、スキャンを一時停止して特定のコンピュータにフォーカスしたい場合は、[P]を押すかマウスの左ボタンをクリックしてください。詳しくは、P.23 のオートスキャンの呼び出しをご参照ください。
- ◆ スキャンを停止して特定のポートにアクセスする場合は、そのポートをスキャン中、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを終了してください。もしスキャンがコンピュータの接続されていないポートにある、または接続されているが電源オフになっているポートに来ている場合は、モニター画面はブランクになり、マウスやキーボードは機能しません。**SCAN DURATION** で設定した時間経過後、表示は次のポートへと移動します。
- ◆ オートスキャンモードが動作中は、コンソールは機能しません。コンソールを使用する場合は、オートスキャンモードを解除してください。
- ◆ オートスキャンモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

◆ F8 LOUT

F8 LOUT をクリックするか[F8]を押すと、コンピュータの OSD 操作からログアウトし、コンソール画面をブランク(空白)にします。この操作は、OSD 画面から出るために[Esc]を押すのとは異なります。[Esc]操作では、再度 OSD 画面を表示するためには OSD ホットキーを押すだけなのに対し、この機能では OSD にアクセスするのに、再度ログインしなければなりません。

注意:

1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示した場合、OSD メインメニュー以外は表示されません。ユーザー名とパスワードを入力後、使用可能になります。
2. ログアウト後に再び OSD を表示し、メニューからポートを選択しないで[Esc]キーを使用して OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には **Null Port** 無効ポートメッセージが表示されます。

第 5 章

ファームウェア アップグレード ユーティリティ

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティは、スムーズかつ簡単な操作で KVM スイッチのファームウェアをアップグレードすることができます。

ファームウェアアップグレードパッケージはデバイス別に用意されています。新しいファームウェアパッケージは弊社 web サイトで公開されます。機器を最新の状態に保つために、定期的に弊社 web サイトをご覧ください。

<http://www.atenjapan.jp/>

アップグレード開始

以下の手順に従ってアップグレード作業を進めてください。

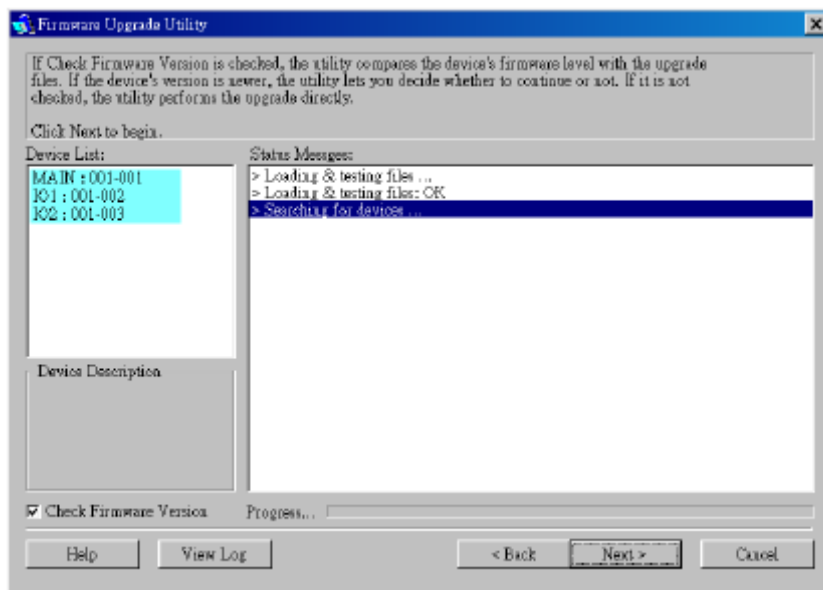
1. ダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをダブルクリックまたはコマンドラインでフルパスを入力して実行します。以下のようなライセンス認証確認画面が表示されます。



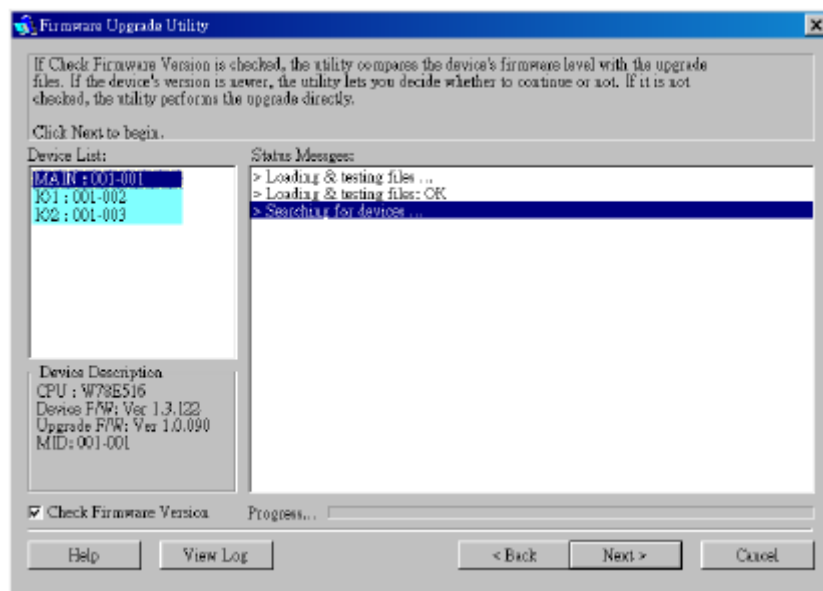
注意：実際に表示される確認画面はこのスクリーンと異なる場合があります。

2. ライセンス規約に同意したら「I Agree」ラジオボタンをオンにして、「Next」を押して次に進んでください。

3. 「Next」を押すとファームウェアアップグレードユーティリティメイン画面が表示されます。Device List フィールドに、アップグレード可能なデバイスが表示されます。

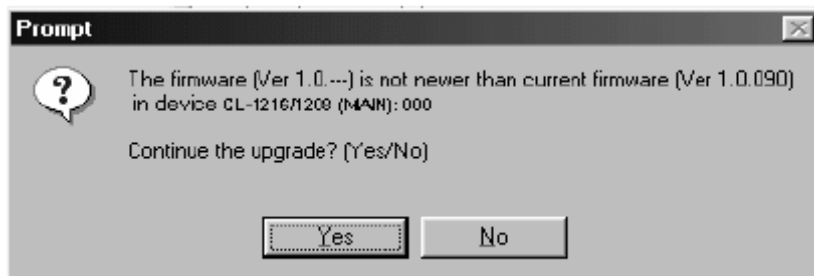


4. 「Device List」フィールドで選択されたデバイスの詳細が、画面左下の「Device Description」パネルに表示されます。



5. デバイスを選択後、「Next」をクリックしてアップグレードを実行します。

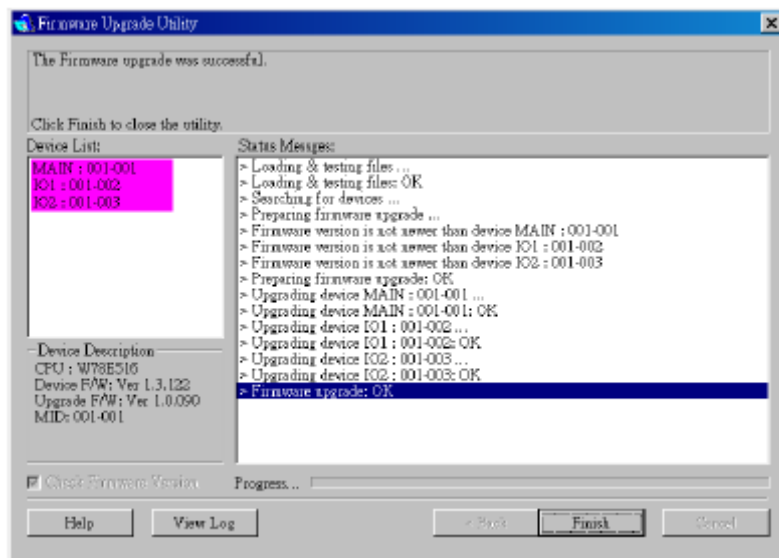
Check Firmware Version にチェックが入っている場合は、ユーティリティは現在のファームウェアバージョンとアップグレードパッケージのバージョンを比較します。もし現在使用のバージョンがアップグレードパッケージよりも高い場合は、このようなダイアログボックスが表示され、アップグレード実行継続/中止の確認を行います。



Check Firmware Version にチェックが入っていない場合、ユーティリティはバージョン比較をせずにアップグレードを行います。アップグレードの進捗状況はステータスフィールドとプログレスバーで表示されます。

アップグレード成功

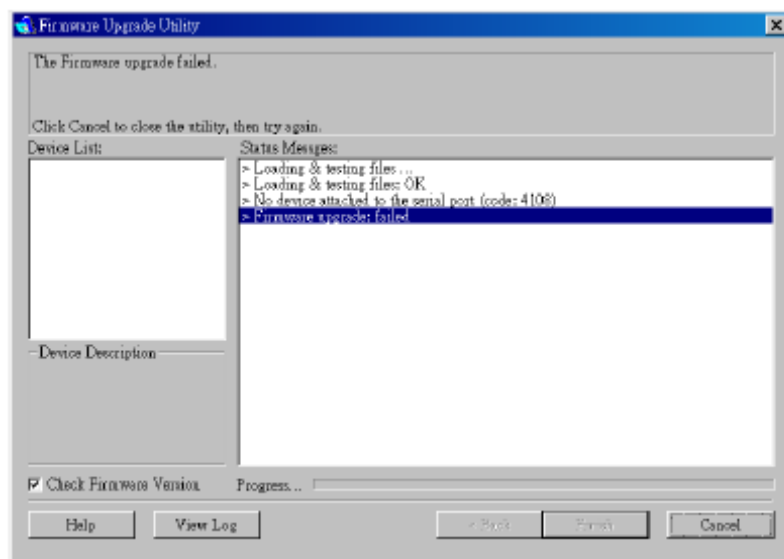
アップグレード完了後、アップグレード成功のメッセージが表示されます。



「Finish」を押してファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

アップグレード失敗

アップグレード成功画面が表示されない場合は、アップグレードが正常に終了しなかったことを意味します。次ページのファームウェアアップグレードリカバリーに従って、アップグレードを完了させてください。



ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となるのは以下の3つの場合です：

- ◆ ファームウェアアップグレードモードを有効にしたが、その後アップグレードを行わなかった場合
- ◆ メインボードのファームウェアアップグレードが失敗した場合
- ◆ I/O ファームウェアアップグレードが失敗した場合

ファームウェアアップグレードリカバリーは以下の手順に従って行ってください。

1. スイッチの電源をオフにしてください。デジチェーン接続を行っている場合は、構成から外してください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを本体リアパネルのファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Recover」ポジションにしてください。
4. スイッチの電源をオンにし、通常の手順に従ってアップグレードを行ってください。
5. スイッチのアップグレードが成功したら、電源をオフにし、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Normal」ポジションに戻してください。
6. デジチェーン接続を行っていた場合は、スイッチを構成に戻してください。
7. スイッチの電源をオンにしてください。

注意：

もしデジチェーン接続のままファームウェアアップグレードを行い、スレーブユニットでアップグレード失敗が発生した場合は、そのユニットを構成から外し、単独でアップグレードを行ってください。アップグレード成功後、構成の中に戻してください。

コンピュータ接続表

以下の表は master view™スイッチの台数とデイジーチェーン接続を利用して接続できるコンピュータの最大数の関係を示したものです。

ACS-1208A

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201 - 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49 - 56	15	113 - 120	23	177 - 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

ACS-1216A

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97 - 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512

OSD デフォルト設定一覧

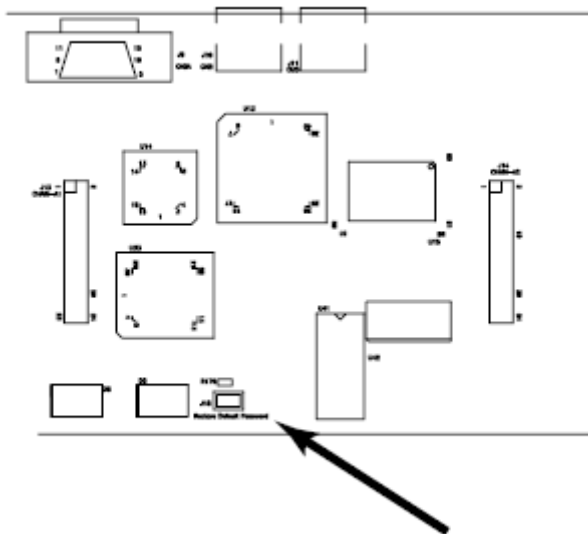
工場出荷時の OSD デフォルト設定は以下の表のようになっています。

項目	初期設定
OSD Hotkey	[Scroll Lock] 2 度押し
Port ID Display Position	画面右上隅
Port ID Display Duration	3 秒
Port ID Display Mode	ポート番号 + ポートネーム
Scan Duration	5 秒
Scan/Skip Mode	ALL
Screen Blanker	0 秒 (使用不可)
Logout Timeout	0 秒 (使用不可)
Beeper	Y (ビープ音有り)
Accessible Ports	F (フルアクセス) - すべてのユーザーがすべてのポートにアクセス可能

ログイン情報の消去

パスワードを忘れる、その他何らかの理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

1. スイッチの電源をオフにして、本体ケースを開けてください。
2. 下図で示した場所にある、Restore Default Password と書かれているジャンパスイッチをショートさせてください。



3. そのままスイッチの電源をオンにしてください。モニタに以下のようなメッセージが表示されます。
***USER NAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN
RESTART.***
4. スイッチの起動後、OSD のログインパスワードは工場出荷時の状態に戻っています。

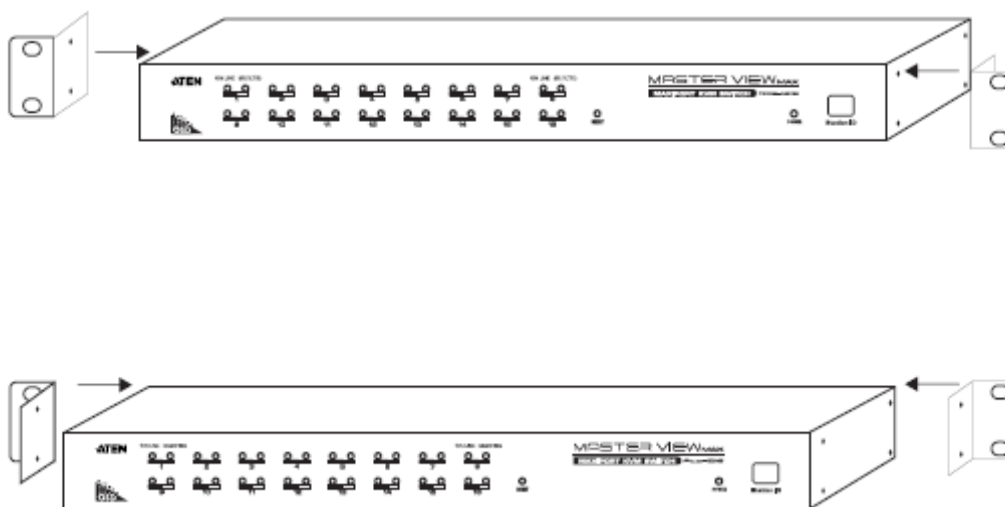
仕様

機能		ACS-1208A	ACS-1216A
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大	256	512
ポート選択		ホットキー、OSD(オンスクリーンディスプレイ)	
コネクタ	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス	×1
	マウス	ミニ DIN 6 ピン メス	×1
	モニタ	HDB-15	×1
	コンピュータ	SPHD-15 メス ×8	SPHD-15 メス ×16
	デイジーチェーン	チェーンイン:DB-25 メス チェーンアウト:DB-25 オス	×1 ×1
	ファームウェア アップグレード	RJ-11	×1
LED	オンライン	オレンジ ×8	オレンジ ×16
	選択	グリーン ×8	グリーン ×16
	電源	ブルー	×1
	ステーション ID	オレンジ	2 桁
スイッチ		スライドスイッチ (ファームウェアアップグレード)	×1
		ピンホール型スイッチ(リセット)	×1
スキャンインターバル		255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)	
キーボード/マウス エミュレーション		PS/2	
VGA 解像度		1,920 × 1,440; DDC2B 準拠	
電源仕様/消費電力		DC 9V/7.5W	DC 9V/8W
動作環境	動作温度	0~50°C	
	保管温度	-20~60°C	
	湿度	0~80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		2.73kg	2.83kg
サイズ (W×D×H)		483 × 155 × 45mm	

ラックマウント

ACS-1208A/ACS-1216A は 19 インチシステムラックに 1U サイズでマウント可能になっています。ラックの手前側・奥側のどちらでも設置できるように設計された付属のラックマウントタブを本体にネジ止めしていただくだけでマウント準備は完了します。タブの取り付けは下図を参考にして、以下の手順で行ってください。

1. ラックマウントタブを ACS-1208A/ACS-1216A ユニットの側面、フロントパネル側またはリアパネル側にネジ止めします。
2. ユニットのラックにスライドさせて収納し、しっかりとネジ止めしてください。



トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
動作が不安定	供給電力が不十分	同梱の電源アダプタが適切に接続されているか確認してください。
キーボード/マウスが反応しない	キーボード/マウスのリセットができていない	コンソールポートに接続したキーボード・マウスのケーブルを抜き差ししてみてください。
デージーチェーン接続で、ステーション ID がすべて 01 と表示される	本来のステーション 01 への電力供給が突然失われた	しばらく待つとユニットが自動的にステーション位置を検出し、適切なステーション ID 番号を表示します。

製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。